

# 生活単元学習における生徒の学びの実際

単元「溶かして作ろう虹色クレヨン、みんなで描こうアート作品！」における3名の生徒の様子から

## 単元の概要



クレヨンの「熱すると溶ける性質」に注目し、好きな色の破片を組み合わせた様々な形の「虹色クレヨン」を作る。また、それらを使って自由に絵を描く経験を重ねながら更なる展開への期待感を高めたり、交流相手からいただいたクレヨンの端材を「虹色クレヨン」に再生させ、プレゼントしたりした。本校の50周年記念式典で合同アート作品の披露もした。

## 単元の流れ

### 展開1 虹色クレヨン作り

(単元1～5日目)

#### 虹色クレヨンの作り方



できるだけ自由に、作ってみよう

型とクレヨンを選んで… 砕いて型に入れて… 熱して… 冷やして出来上がり

### 展開2 交流

(単元6、7日目)



お返し用だから、色見本を見てきれいな色で作ろう

校内にクレヨン回収BOX設置 附属幼・小からクレヨン頂く 色見本を見て虹色クレヨン作り 附属幼・小へ虹色クレヨンをプレゼント

### 展開3 合同アート制作

#### 合同アート作品の作り方

50周年式典に向けて、校歌の歌詞をモチーフにした大きな絵をみんなで作ろう



虹色クレヨンで塗り絵をしたり、絵を描いて… はさみで切って… 大きな紙に貼ったら 出来上がり

## Iさん <この型なら、クレヨンの量はどのくらい？>

【実態】2年生男子 (ASD)

- ・教室内の物の配置や自身の行動の順番にこだわりがある場面が見られる。
- ・手先が器用であるが、全体指示で行動することは難しく、慣れるまでは、個別に確認をしたり、友達の様子を見たりして行動することが多い。
- ・やり方が分かると、一人で進めたり、自分なりのやり方に変えて取り組んだりすることがある。

### 【エピソード①】どうやって作るかな？

隣の友達の様子を見て、真似してみよう！作り方の見本があるぞ。この通りに作ってみよう！最後はあっちで溶かすんだな。先生が教えてくれたとおりにやってみよう。

最初の頃は、授業中での時間の使い方やクレヨンの作り方が分からず、教師のアドバイスを必要としたり、友達と一緒に行動することが多かった。

### 【エピソード②】きっちり作りたいな、僕のクレヨン♪

見本とおり3本選んだけど、量が足りない気がする。ぴったりになりたいなあ。さっきの型だといっぱいになったのになあ。もう一個型持ってきてもいいの！？じゃあ、この型はクレヨンこのくらい…こっちの大きい型はもうちょっとクレヨン増やして…

作り方が分かると自分から繰り返しクレヨンを作る様子が見られるようになった。また、持ってくるクレヨンの量を型に応じて調整していると考えられた。

### 【エピソードに含まれる学び】～自分の納得を表現する～

初めは、教師と手順を確認しながら、本人なりに「何をするのか」への理解を深めていったと考えられる。見通しがもてると、「型の中を砕いたクレヨンでいっぱいになりたい」や「この作り方で進めたい」など、本人らしさを表現したり、それを達成するために自分で考え判断したり、繰り返しの活動の中で、彼なりの試行錯誤ができたと考えられる。

・算数1段階内容D測定ア(イ)



## Jさん <色見本からオリジナル作品へ>

【実態】2年生男子 (ASD)

- ・手順表を活用して、活動を進めることができる。製作活動は好きだが、イメージをもって創造的に行うことは少なく、目の前のことをこなしていくことに意欲をもっていると思われる。

### 【制作1日目～3日目の様子】

- ・クレヨン→型の順番で選んでいた。
- ・赤、青、黄色が好きで、その色のクレヨンを選ぶことがパターン化していた。
- ・型は様々なものを選んでいった。一度、星形の型から選んだときには、「星」をイメージしたのかクレヨンの山から黄色のクレヨンのみを選んで制作した。

### 【エピソード 9月1日制作4日目】

- ・授業が始まり、一つ目のクレヨン作りで、いつもと同じ赤、青、黄色の3色を選んだ。そこで、二つ目は新しく登場したイラストを参考に言葉かけると、「ハンバーガー」と話し、色見本を見てクレヨンを選んだ。選んだ後は、たくさんある型の中から丸を選んでハンバーガーになるように工夫していた。

### 【エピソードのその後】

- ・色見本が登場したことで、見本通りに3色を選んで作るようになった。単元の後半には、自分で考えたオリジナルの3色(グレー・水色・白)を使ってクレヨンを作ることもあった。

### 【エピソードに含まれる学び】

- ・制作がパターン化していたが、色見本で新しい視点に気付いたことで、単元後半には自分で考え判断して制作する様子が見られた。
- ・繰り返し活動する場面があることで、試行錯誤する姿が引き出された。

・美術1段階内容A表現ア(ア)



## Qさん <楽しい！だから、作りたい！もっと、やりたい！>

【実態】3年生女子 (ASD)

- ・使う道具や教師の手本などの視覚的な情報から、活動の見通しをもつことができ、手順を覚えれば自分で活動を進めることができる。
- ・作業学習では、補助具を使ってくるみボタンと布を組み合わせ、完成品をかごに入れる工程に、30分程度継続して取り組むことができる。

### 【他の授業の様子】

前単元では、見通しがもちやすい制作活動の中でも離席をすることがあり、時間いっぱい取り組んだり、自ら手を動かして取り組んだりすることが難しい様子であった。

### 【担当した教師の見立て】

活動への意欲を引き出すためには、活動が簡単な内容である、というだけでは足りないようだ。活動量が不十分だったのだろうか？

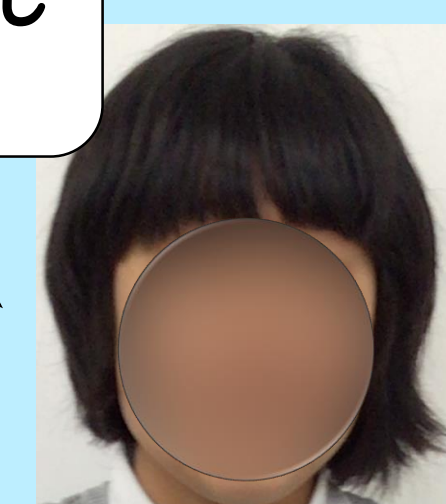
### 【今単元の様子】

クレヨンの制作1～2日目は、教師の手本や言葉かけを手掛かりに取り組み、クレヨンの作り方を確認している様子であった。3日目以降は手順を覚えたようで、自分からクレヨンやシリコン型などの道具を揃えて、クレヨンが次々と砕き、型に入れてホットプレートの所に届ける工程に時間いっぱい取り組んでいた。離席する様子は見られず、クレヨンを砕く袋などの道具が足りなくなったときは、教師の腕に触れるなどして「袋が欲しい」という気持ちを表現する姿も見られた。

### 【担当した教師の見立て】

- ・4工程くらいの手順でできる活動は、難易度がちょうど良いようで、自分のペースで活動に取り組む姿を引き出すことができた。
- ・「プレゼント用の制作物をたくさん作る」という学習の目的が、「たくさん作ることでやりがいを感じる」という特性に適しており、教師や友達から「たくさん作って凄いね！」と褒められたことが、更に取り組もうとする意欲を引き出すことに繋がったと考えられる。

この作り方なら私にもできるから楽しい！みんなに褒められて嬉しいからもっとやりたいな♡



### 【エピソードに含まれる学び】

- ・繰り返し制作に取り組む単元の構成と、適度な難易度の活動が、生徒の特性に適していたことで、活動に興味をもち、自分なりに目的をもって活動する姿を引き出すことができた。
- ・たくさん作ったことが褒められ、活動へのやりがいを感じられたことで、材料が足りなくなったときに、自分の気持ちや考えを表現する姿を引き出すことができた。
- ・図画工作2段階A表現ア(イ)

## まとめ

- ・3人が、単元のストーリーをそのまま受け取っていたわけではないが、それぞれが自分なりの目的意識をもって活動に取り組むことができた。それは、多様なそれぞれの目的意識を含み込むことができる自由度の高い活動、柔軟性のある単元だったからであると考えられる。
- ・3人とも「できる活動」を繰り返し行い、見通しをもつことでやってみようという行動や挑戦が生まれ、できたという達成感につながった。それが、もっとやってみようや、工夫してみようという次の活動への意欲となった。